

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

2

今月の話題

作業時間最大4割減

作付け1.5倍可能

農研機構 ロボット農機の稲作導入

農 研機構は、ロボットトラクターやロボット田植え機などのスマート農機を稲作に導入することで、耕起、田植え、収穫の作業時間を最大4割削減できることを確認しました。その省力分の労力で、実証した法人では、1.5倍の120^{ha}への作付け拡大が可能となり、生産コストが現状から4%減の60^{万円}当たり9064円を実現しました。



2台同時で耕起作業するロボットトラクター
(千葉県横芝光町)

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)事業の一環。同事業で

開発したロボット農機や、自動水管理システムを全国4法人に導入し、2017年作から作業性を調べています。

千葉県横芝光町で「コシヒカリ」「ふさがね」などを作付けする法人では、自動運転が可能なたらクター、田植え機、コンバインと、気象データを基に収穫適期や病害対策を示す栽培管理

支援システムを導入しました。トラクターは、有人機と無人機の2台同時作業で耕起や肥料散布、代かきなどを行いました。自動化により、耕起と収穫作業で3割、田植え作業で4割の作業時間を削減できました。

17年作は、法人には4人の常時雇用者がいて、1人当たり年間農業所得は790万円と、導入前に比べて45%増えました。

その他の法人でも、自動水管理システムで水管理の時間を7割減らせるなど、省力効果が出ているといえます。

18年作も試験し、麦・大豆との輪作や、水稻の乾田

直播(ちよくは)栽培での効果を調べています。

同機構は「地域や法人の構成などで最適なシステムの組み合わせは変わる。実証試験で改善点や解決策を見つけていく」と話します。

今が旬
この言葉

クラウドファンディング
(CF)

クラウド(人々)とファンディング(資金調達)を組み合わせた造語で、インターネットを通じて、多くの人から資金を調達して事業を行う仕組みです。2017年度のCFの市場規模は前年度の2.3倍に拡大。農業の分野では、6次産業化や耕作放棄地活用などさまざまな分野で活用されています。交流の場や特産品づくりなどを通して、地域を応援したい都市住民と農山村を結び付けるなど、地域活性化の手段の一つとして期待が高まっています。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

(日本農業新聞より)

JAみえきた「LINE@」拡大中 直売所クーポンなど配信

JAみえきたは昨年4月から無料通信アプリ「LINE@」を運用し、管内の農産物直売所で利用できるクーポンや日々の買い物に役立つ情報を配信している。JA組合員や利用者の高齢化が進む中、対外広報の一つの手段としてインターネット交流サイト(SNS)による若年層の開拓が狙いだ。生産者と消費者のパイプ役として、より多くの人にJAの活動を周知するとともに、店舗の活性化と集客力アップを目指している。今年3月末時点で3000人の「友だち」獲得を目標に掲げる。(2019/1/16 ワイド2東海)

JA鈴鹿 アグリサービス鈴鹿 青果11品目 JGAP取得

JA鈴鹿の子会社(株)アグリサービス鈴鹿は12月下旬、青果物計11品目で、農業生産工程管理(GAP)の日本版であるJGAP認証を取得した。青果物生産でのJGAP認証取得は、県内のJAおよびJA子会社としては初めて。認証を受けた品目は、カボチャ、キャベツ、キュウリ、サトイモ、スイートコーン、ダイコン、ニンジン、ネギ、ハクサイ、パレイショ、ミニトマト。同社は、学校給食用の食材やJAの振興野菜の生産に取り組む。GAP認証を取得することで、農産物の安全・安心をPRしていく。(2019/1/8 ワイド1東海)

JAいがふるさと 落語で初笑い 三重・JAいがふるさと年金友の会

JAいがふるさとの年金友の会大山田基幹支部は1月上旬、JA大山田支店で「落語を楽しむ会」を開いた。年金友の会会員約80人が集まり、落語や、景品が当たるお楽しみ抽選会を楽しんだ。大山田基幹支部の落語を楽しむ会は今回で13回目。毎年、関西大学落語研究会OB3人が落語を披露している。JAの西口育男常務は「笑うことで免疫力は高まり、がんや認知症に効果があるといわれている。皆さま大いに笑って元気に過ごしてほしい」とあいさつした。(2019/1/18 ワイド2東海)

ニホンザルによる農業被害 群れの個体数を減らし効果

西 日本を中心に多発

しているニホンザルによる農業被害。頭数が多く加害レベルが高い群れは、追い払い等の被害対策だけでは十分な効果が得られない場合がありま

す。そこで三重県農業研

究所(研究担当者・山端直人(現在・兵庫県立大学)では、そのようなサル群の個体数を削減すること

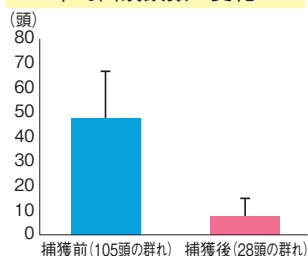
で、群れの性質や農業被害などに及ぼす影響を明らかにしました。

三重県伊賀市に生息する加害レベルが高い105頭のサル群を、クラウドによるみえホカクン(ICTによる檻罠の遠隔監視・操作装置)と大型箱わなにより捕獲し、1年間で28頭の群れへと大幅に縮小しました。その後、被害を受けていた集落住民へ調査を行ったところ、1回あたりの平均出沒頭数はおよそ50頭から8頭へ、集落での滞在時間も120分から15分程度に低下しました。また、サル群の行動範囲面積が半減し、農地の被害程度が大幅に減少する効果がみられました。

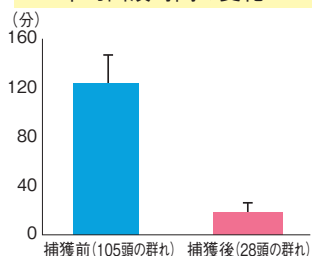
なお、捕獲によるサル群の縮小等を行う場合には、市町単位等で群れの行動範囲や加害レベルを把握し、これに基づいた群れ単位の管理計画を定め、たうで実施する必要があります。

また、縮小したサル群れに対しても、追い払いや侵入防止柵などの被害対策を継続して実施することで、さらなる被害軽減や効果の持続が期待できます。

平均出沒頭数の変化



平均出沒時間の変化



お問い合わせ先 三重県農業研究所 地域連携研究課 ☎ 0598-42-6356

農業を営むすべての方に 農業経営資金

対象期間/平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JAバンク利子補給制度(3年間)と

当JA金利引き下げ(2年間)措置の対象となります。利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

《お借入金利》 - 《JAバンク利子補給・金利引き下げ》
変動金利 年1% - 年0.8% =

実質 年0.2% 5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/> 平成31年1月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。

